

平成30年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

1 日時 平成31年3月12日(火) 午後3時30分～4時30分

2 会場 同志社 新島会館2階 貴賓室

3 出席者

評議委員：荒木かおり，上原恵美，片山真理子，鈴木久男，田端泰子，野口実，
藤野正弘

京都市：文化市民局文化芸術都市推進室 西山担当部長，中川文化財保護課長
歴史資料館 井上館長，宮崎次長 他

4 議事運営

(1) 開会

京都市市民参加推進条例第7条により本会議及び議事録等について公開とすることを説明。

(2) 開会あいさつ

(3) 出席者の紹介

(4) 平成30年度事業報告説明(資料2参照)

展示事業は，特別展3展，企画展2展，スポット展3展を開催。

展示の関連講座は，史料叢書刊行記念シンポジウム「久多，はるかなる中世から現代まで」，連続歴史講座「激動の明治と京都の元勳」を3講座及び「明治京都の開拓者たち」を4講座実施。

研究紀要と史料叢書は隔年度で刊行しており，平成30年度は研究紀要第28号を刊行。

情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」は，行財政局サービス事業推進室の協力を得て，全件の所在を確認し，写真撮影をし，情報を更新する取り組みを進めた。平成31年度も継続して実施。

展示来館者は2月末現在，例年に比べ7パーセントの減少。資料の閲覧者数は増えているが，相談件数は1割減少。

(5) 質疑応答

[評議委員] 京都歴史文化施設クラスター実行委員会の予算はどこから出ているのか，という組織なのか。

[市・資料館] 京都文化博物館が中心となり，京都市からは文化財保護課，考古資料館，歴史資料館，学校歴史博物館が参加している。予算は，国の補助金。事務局は京都文化博物館が担当。歴史資料館は，博物館相当施設ではないため，国の補助事業の主体となることができないため，実行委員会を通じて補助金を得ている。

[評議委員] 個々の事業により主体が変わるのか。

- [市・資料館] 歴史資料館が行う事業もあれば、考古資料館で行う事業もある。
- [評議委員] 市役所外の組織を上手に利用していることに感心した。
行財政局サービス事業推進室は、歴史資料館が持っている石碑のデータをもとに、所在の有無を確認しているのか。
- [市・資料館] 歴史資料館にある石碑のデータと写真を渡し、確認している。
- [評議委員] 西郷隆盛の息子の西郷菊次郎が京都市長を務めており、関係資料も展示できればと思う。
- [評議委員] 博物館相当施設とはどういう施設で、歴史資料館がこれに該当しない要件は何か。
- [市・資料館] 博物館法では、登録施設、相当施設、類似施設の三種類がある。歴史資料館と考古資料館は博物館類似施設という位置付け。博物館相当施設となるためには、どういった資料を所蔵しているのか、学芸員がどういう体制なのかなど様々な制約がある。手続きに向け準備を進めている。
- [評議委員] 博物館相当施設のメリットはなにか。
- [市・資料館] 文化庁などから補助金を得る際に、受入れ主体となることのできる。博物館相当施設でない現状では、今回のような組織に参加が必要。
- [評議委員] 博物館相当施設をめざして準備をしているということか。
- [市・資料館] 窓口である教育委員会と協議を進めている。
- [評議委員] 京都市の他の施設で、博物館相当施設はどこか。
- [市・資料館] 学校歴史博物館や京都市美術館になる。
- [評議委員] 博物館相当施設になるためには、空調や温湿度管理といった施設面の課題も大きい。
- [市・資料館] 展示室の側面のガラスが可動式のため、隙間があり温湿度管理が難しい。エアタイトの展示ケースは1台しかない。それでも博物館相当施設への申請を考えたのは、京都市の財政が厳しい中、国からの補助が可能になるからである。
- [評議委員] 展示環境について、酸性化している資料の劣化を止める「ガスQ」というシートは、活用しているのか。
- [市・資料館] フィルムの保管に活用している。
- [評議委員] 博物館相当施設に関しては、厳しく審査されるので、保存の面もそうだが、展示施設そのものが酸性でないようにしなくてはならない。
資料の搬入経路は何箇所あるのか。
- [市・資料館] 東側と西側の二箇所になる。
- [評議委員] 館の入口の扉を開閉する際、扉の下の間隙から虫が入ってくるのではないのか。かき出すブラシを付けるといった工夫で防ぐことができる。工夫次第で改善できる部分はまだまだある。

[市・資料館] 「ガスQ」の購入など、できる範囲内にはなるが、対応している。

(6) 平成31年度事業計画説明(資料3参照)、歴史資料館運営予算説明(資料4参照)

展示は、所蔵名品展、文化財保護課と連携した「京都を彩る建物や庭園」展示、I COM京都大会を記念した京都市の指定、登録文化財の展示、上京区・下京区140年に関連する展示、NHKの大河ドラマで取り上げられる明智光秀の展示を予定。

講座は、展示に関連する歴史講座を予定。展示解説の回数を増やすことも考えている。その他、春と秋に古文書講座、夏休みに親子歴史教室を行う。

資料の調査・収集・整理・保管・研究については、文化庁の助成事業により文化財保護課と協力し「京都市内個人所有古文書調査」を実施する予定。

「叢書 京都の史料」の第16回配本として「摺物絵集成」を刊行する予定。

歴史資料館の収蔵スペースが厳しい状況になっていることから、旧淳風小学校の教室を使用している。

また、考古資料館を含めた施設のあり方について検討を進めており、より良い収蔵施設を確保し、資料の整理、活用につなげていきたい。

予算は、平成31年度歳出の一般経費が平成30年度より70万円の減額。特別経費はI COM京都大会関連の文化財展の費用になり、展示台を改修する予算を含んでいる。文化庁の助成で実施する「京都市内個人所有古文書調査」は、文化庁が二分の一、京都市が二分の一の費用を負担するが、歴史資料館の予算には含まれておらず、文化財保護課の予算になる。

(7) 質疑応答

[評議委員] 「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」は、どれくらいの予算を想定しているのか。

[市・資料館] 古文書調査の予算は、文化財保護課が100万円、国が100万円、合計200万円になる。継続事業なので、今年国から認められれば引き続いて要求し、京都市の予算も確保するようにしていきたい。

[市・資料館] 国が優先順位を付けており、一次募集では採用されなかったが、二次募集に申請するよう努力する。

[評議委員] 世代交代が進み、古文書を引き取ってほしいという依頼がたくさんあると思う。そうした場合に、古文書を収蔵する場所の確保や収蔵環境の管理といった施設に対する費用を、「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」では支出できないのか。

[市・資料館] 調査や調査の成果を発信するための補助事業になる。施設に対する費用は対象にならない。収蔵、保存環境は、切迫した課題として検討を進めている。

[評議委員] 調査に付随する費用が相当必要であるということを認識し、しっかりと進めてもらいたい。

[評議委員] 予算が少ない中で、さらに5パーセントの削減は、考え直すべきだ。入館

者数が増加していることを上手くアピールすれば、予算の付き方も変わってくるのではないかと。また、叢書が平成31年度刊行される予定になっているが、費用は管理運営費から支出するのか、別立てか。

[市・資料館] 叢書の刊行は、平成28年度から管理運営費に含んでいる。予算は、市全体として削減しなければならない中で、外部からお金を取る努力を進めている。予算は減少しているが、できることが減らないように工夫している。

[評議委員] 大型の地図や古文書をスキャンする装置は整っているのか。

[市・資料館] スキャナーは、A3が最大になる。

[評議委員] A3でカバーできない場合はどうしているのか。

[市・資料館] デジタルカメラで離れた距離から撮影するか、分割して撮影している。

[評議委員] 資料の保存と活用について、歴史資料館の入口から展示室までの距離が短いのは良くない。雨が降ると、外気の湿度がそのまま入ってしまう。人の移動によって、ちりやほこりも入る。予算が潤沢に無いのはわかるが、展示室や展示ケース内の温湿度の変化など基礎的なデータを収集しておくことが必要。考古資料館とは異なりデリケートな資料を扱っており、光や湿度について基礎データの収集を事業計画に入れ、積み重ね、施設の改善要望をするのが良い。

[市・資料館] 市民から、歴史資料館に寄贈・寄託を受け、安心してもらえる施設を目指している。いろんな機会に要望していく。

[評議委員] 昨年、映像展示が古いことを指摘したが、まったくリニューアルされていない。京都の歴史を通史的に語る施設がどこにもないという状態をどうにかしなければいけない。京都は歴史が前提になっているのに、他の自治体と比べて文化行政、歴史博物館行政に振り向ける予算の割合が少ない。歴史があっても京都市の財政が成り立っているのだから、もっと要求していただきたい。予算の獲得、博物館行政のあり方、ガイドの養成のあり方など、フィレンツェの文化財、博物館行政の事例は参考になる。

収蔵品のリストをホームページにアップしてもらいたい。そうすれば閲覧者が増える。

また、展示リーフレットは、形式を統一して年度末にハードカバーを付けないと蓄積がなくなる。本当は図録があればいいが。

京都市歴史博物館構想が立ち消えになっている。考古資料館、京都アスニー、歴史資料館、埋蔵文化財研究所などの施設がバラバラなので、うまく連携できないか。京都市民が京都の歴史を考える時、どこに行ったらいいのかわからない。チャラチャラした観光都市で終わってしまう気がする。

[評議委員] フィレンツェの歴史博物館に2、3年前に行ったことがあるが、びっくりするほどIT化が進んでいた。遺跡が本来はどうだったのかという復元の映

像が立ち上がり、映像で遺跡が再現されていた。この映像を見てから遺跡を見るべきで、フィレンツェを楽しめるツールとして有効だと思った。

[市・資料館] ITや映像を使った取り組みは、一つの示唆になる。身近なところから少しずつでも進めていきたい。

(8) 評議委員について

[市・資料館] 市民評議委員は2年間の任期が終わり、新たに次の市民評議委員を募集した。7名の応募があり、検討した結果、現状認識や歴史資料館の立地条件を活かす取り組みについて提案いただいたB氏にお願いすることとなった。学識経験者の評議委員は、2年間の任期で3回まで更新できることになっており、上原委員、鈴木委員、田端委員、野口委員の4名には交代していただくこととなる。新たな委員については選考を進めているところである。

退任される委員の方から意見を頂戴したい。

[評議委員] 一番大切なのは説得力のあるデータだと思う。施設の改修についても温湿度がどうなっているのか、事実を積み重ねて提示していくことが必要。

[評議委員] 歴史は地域の中で育まれてきたもの、地域の方に伝える努力を続けていただきたい。

[評議委員] 京都は、圧倒的に歴史で成り立っていることを、もっと自己主張すべき。ポリシーを持って文化行政を進めるべきだ。

[評議委員] 情報の発信が大切である。

(9) 閉会あいさつ

京都にはいろいろなものがあり過ぎて、その上にあぐらをかいている部分が多い。観光は社寺がメインで、歴史資料館が取り扱っている古文書などの部門に対してウェイトが軽かったのではないかと感じている。あの手この手で予算を取りにいっている。いろんな場面で声をあげていただき、そうした声が市長に届くことは、我々にとっても非常に大きな後押しとなる。任期を終えられる方が多いが、これからも応援団として意見を届けていただきたい。